

西田幾多郎 未公開ノート類 研究資料化

報告 4

2020

§ 4. Verchiedene Formen d. Religion

den religiösen Bedürfnissen d. Lebens bedürftig.
... der höchste Lebenstrieb ist d. g.
... Normen d. Grundhaltungen d. d. Mensch
... Rechte d. Freiheit d. ...

... Religion ...
Bedürfnisse d. Schlaf ...
... Leben ...

... Religion ...
... Schleiermacher ...

西田幾多郎 未公開ノート類 研究資料化

報告 4

2020

i	はじめに
	浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)

1	写真 — 講義ノート・受講ノート・他 —
---	----------------------

9 第一部 翻刻の経過

11	2020 年度研究資料化事業の経緯
	浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)
14	2020 年度の一次翻刻作業について
	中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
17	2020 年度の二次翻刻作業について
	中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
20	出典調査について
	中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
22	全集別巻編集の意図とその表記
	中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
29	事業成果の公表・活用について — 企画展・グッズ —
	中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
31	報告資料

41 第二部 寄稿

43	西田幾多郎の「ヘルマンとドロテア」ノートとヴァーグナー読本
	高橋 麻帆 (石川県立看護大学非常勤講師／古書肆)

55 第三部 資料調査

57 ノート全 50 冊の概要
中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員)

60 ノート全 50 冊種類別一覧
中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員)

62 ノート全 50 冊の調書
中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員)

164 ノート以外の資料全 250 部の概要
中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員)

168 ノート以外の資料全 250 部種類別一覧
中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員)

179 読書ノート出典書籍索引
中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員)

185 あとがき

186 執筆者一覧

はじめに

研究資料化事業における成果と反省 —典拠を探ること—

浅 見 洋

(石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)

1. 新型コロナウイルス感染の拡大と『別巻』の刊行

私たちにとって2020年度は西田幾多郎生誕150周年であり、同時に新型コロナウイルス感染の拡大によって翻弄される日々であった。それは単なる感染症のパンデミックに止まらず、政治、経済、社会、文化や個々人の生活にまで及んだ。西田幾多郎記念哲学館は4月～5月にかけて休館、在宅勤務となり、心を込めて、周到に準備してきた西田幾多郎生誕150周年記念イベントと関連諸事業の多くが中止、延期、縮小を余儀なくされた。

本「西田幾多郎未公開ノート類研究資料化」に関わる諸計画も感染拡大の影響を受け、当初予定より若干遅れはしたが、年度目標はほぼ達成することができた。特に今年度は資料化事業の経費的裏付けであった地方創生予算と科学研究費(代表:浅見洋)の最終年度であったため、予期せぬ困難にも拘らず、次年度の事業再構築に繋がるような成果を残すことができたことに一先ず安堵している。

今年度の私たちの成果と言えば、何よりも2020年9月23日の『西田幾多郎全集 別巻』(岩波書店)の刊行である。振り返れば、2015年10月に故西田幾久彦氏とそのご子息の健氏から寄託を受けてから約5年、研究資料化という共同研究事業に本格的に取り組んでから約4年の歳月が流れた。ノート資料の修復や翻刻という私たちにとっては未経験の地道な作業であり、遅々とした歩みではあったが、事業に関わってきた者にとっては西田幾多郎の未公開ノート類を活字化しながら、日本哲学の形成期に触れるという、博物館事業としても、研究活動としても濃密なかつ充実した年月であった。とはいえ、私たちにはまだ研究すべき多くの未公開ノート類が遺されており、資料化事業はまだ途半ばであり、登山に譬えれば3合目によりやく辿り着いたにすぎない。それゆえ、今後も継続して地道に取り組んでいくことにはなるが、次年度からは新たな目標を定め、組織、体制を再構築して歩みを進めていくことになる。

2. 人文情報学という手法

今回の別巻刊行に至る過程においては、資料の修復、翻刻、研究において人文情報学 (Digital Humanities) の成果を有効に活用させていただいた。近年における同分野の発展には目覚ましいものがあり、新版『西田幾多郎全集』が完結 (2009 年 3 月) した頃に比べて、人文学研究に有効な情報学のリソースは量的に拡大し、質的にも向上している。特に、翻刻における「人文学におけるテキスト研究用のオープンソースソフトウェア SMART-GS (SMART-Geschichte Studie)」と文献検索におけるデジタルアーカイブ (Digital Archive) は本事業の遂行に欠くことができなかった。また、その活用によって『別巻』にはこれまでの全集にはない特徴をもたせることができた。

SMART-GS は本研究事業の分担研究者として参加していただいた林晋氏 (当時、京都大学大学院文学研究科情報・史料学教授) 等が開発されたソフトで、既に資料情報分野で活用されている。本事業では翻刻の実質的な責任者であった哲学館の中嶋優太専門員が京大大学院時代に、林氏から直接 SMART-GS を使用した講義を受けていた。そこで、林氏と中嶋専門員から、京都大学と金沢大学で翻刻に関わる学生たちにソフトの使い方とそれを用いた翻刻について事前にレクチャーしていただき、スムーズに翻刻作業に着手することができた。本ソフトでは、撮影したノート画像をオンラインストレージで共有しながら同時に作業することができるので、感染症が拡大し、対面での共同作業ができない時期でも、ほとんど遅滞することなく、複数で同時に翻刻作業を続けることができた。

本別巻の特徴の一つは既存全集に比して、かなり多くの典拠、引用を示すことができたことにある。インターネット環境の向上、特にここ数年デジタルアーカイブの構築、整備が急速に進み、文献検索の利便性が飛躍的に高まっている。二次翻刻に携わっている若手研究協力者たちは、新版西田幾多郎全集やこれまでの西田研究では明らかにされていなかった数多くの引用文献、参考図書等を探り当てた。日本哲学の発展期であったためか、講義ノートであったためかは定かでないが、別巻収録の西田のノートは引用文や専門用語を翻訳せずにドイツ語、英語、フランス語のままで記したものが多い。そのため、そうした欧文、欧語をコピーしてデジタルアーカイブで検索すると、引用元の図書の該当部分がヒットする 경우가少なくない。日本に比して欧米の電子図書館の充実ぶりには目を見張るものがある。哲学館も微力ではあるが、将来的には所蔵する西田哲学資料、日本哲学資料のアーカイブ化を推進したいと考えている。

そうした (出典) 調査によって、西田は少なくとも講義ノート作成において、いかに多くの当時最新の欧米の哲学書、哲学史や宗教学史、近接領域の図書を参考にしていたかを知ることができた。西田に対して「思いついたままを書く」とか、「文献学的

なクリティークがない」という批判がなされることがある。しかし、別巻に収録された京都帝国大学赴任して間もない西田幾多郎の講義ノートを翻刻した者には、そうした批判が必ずしも的を射てはいないように思われる。

3. 典拠を探ることを怠った経験とお詫び

人文学の研究者にとって「典拠を探る」ことは基本的な研究姿勢であり、かつ文章を書く際に、典拠を押さえることは初歩的なモラルでさえある。にもかかわらず、前回の報告書（『報告3』）の「はじめに」の「誕生日と暦の問題 ―西暦と元号、旧暦と新暦―」で、こうした基本的な姿勢を欠いていたがために、大きな過ちを犯してしまった。典拠を確認せず「西田の生年月日、1870（明治3）年5月19日は旧暦の日付である」という間違った前提で、的外れな文章を書いてしまった。

事の発端は近況メールに書かれていた何気ない記述を鵜呑みにして、典拠を確認しなかったことである。本事業の同労者である美濃部仁氏が、上田久『西田幾多郎』（南窓社）に「明治三（一八七〇）年五月十九日（旧暦四月十九日）」（同書7頁）と書かれていることを知らせて下さったのは、『報告3』が印刷された後であった。まさに、後の祭りではあるが、上田久氏の典拠が、幾多郎の次男・外彦氏の「父は…明治三年四月十九日夜、五つの刻に生まれてゐる。但し、この四月十九日は旧暦である。新暦では五月十九日である」（西田外彦「父―京都まで―」『西田幾多郎（その人と学）』大東出版、72頁）であることも確認できた。典拠の確認を怠ったがゆえに、取り返しのつかない失態を演じてしまったのである。

誤解を生むような記述をしてしまったことを反省するとともに、美濃部氏をはじめ関係者の皆さまに多大なご迷惑をおかけしたことを心からお詫びする。

2021年2月10日記

写真

講義ノート・受講ノート・他



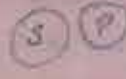
西田幾多郎全集別巻

Regard police - to be able.



Uchiruz;

- All S are P — All S are not not-P
- S are not P — All S are not-P
- Some S are P — Some S are not not-P
- Some S are not P — Some S are not-P.



nothing is in the world
nothing is in the world

James, Leavis & ... reference by
...
All ... are ...
No ... are ...
Some ... are ...
Some ... are not ...

I. Equipollence of judgement
 Equipollence 同 異 + un

同 異 + un

Equipollence = 同 異 + un judgement
 Equipollence = 同 異 + un judgement

a. To change affirmative judgement
 into negative judgement.

affirmative judgement & negative judgement
 肯定判断 & 否定判断

judgement & negative judgement

judgement & negative judgement

That man is ugly. — That man is not beautiful.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

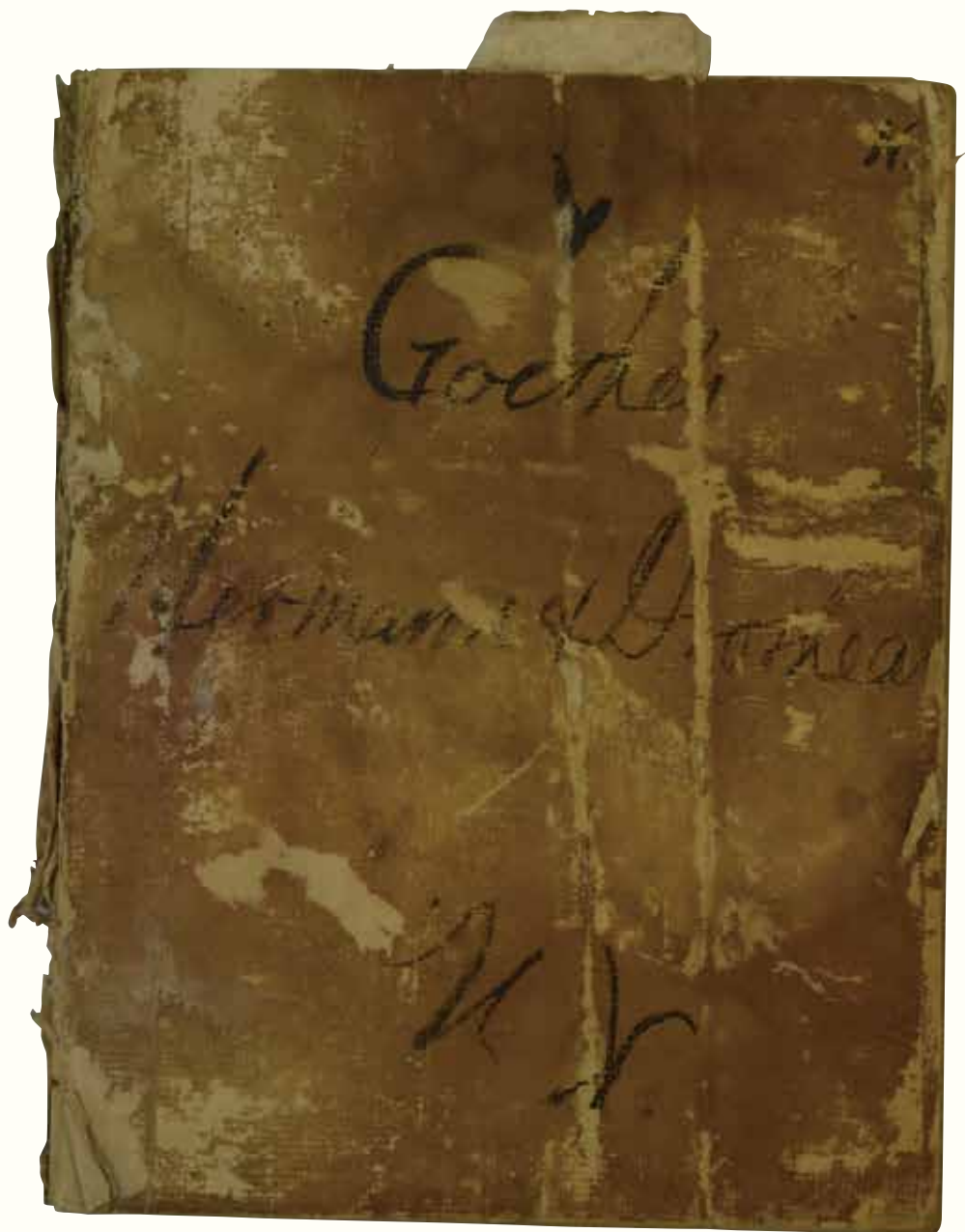
Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

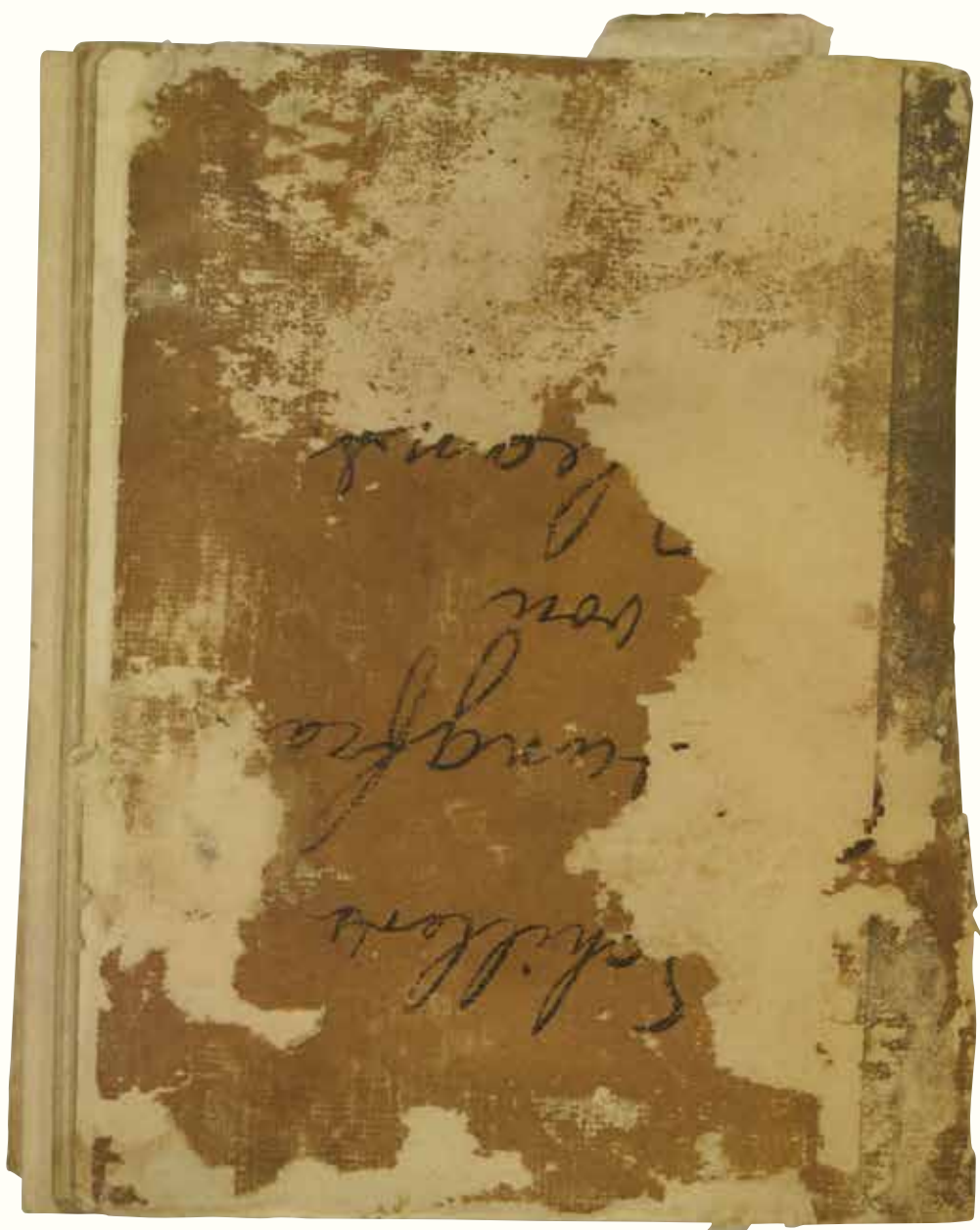
Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.

Some men are wise. — Not all men are wise.



フローレンツ「ドイツ文学講義」に関するノート(D01)表紙



フローレンツ「ドイツ文学講義」に関するノート(D01)裏表紙

D.

Causation of Will.

[illegible]

+ Baldwin - affect 1-27

Shaftesbury (1671-1713)

natural self-love + 自然愛 as principle of social duty as
 abstract reason + 抽象的理性, 本質的理性 naturalness of
 human social affections + 人間社会的感情の自然性 reflection self-
 regard + 自己の利益の考慮 Harmony + 調和 Shaftesbury
 naturalness of social
 affections + 社会的感情の自然性 Shaftesbury 倫理学者 = 1711, Cum-
 berland 27 年 (Clarke 2 abstract reasonableness of
 universal benevolence, 普遍的善の合理性, 27 年 1711
 4 月 12 日, 27 年 12 月 1 日 system, cardinal point + 基本点
 11 Shaftesbury 倫理学者 1711 年 12 月 1 日 center of ethical
 interest + 倫理の中心 Reason 27 emotional impulses + 感情的衝動

Shaftesbury - Hobbes 2 doctrine of rational intentions
 of duty + 道徳的義務の合理的意図 egoistic interpretation of good
 = 利己的解釈 Shaftesbury 1711 年 12 月 1 日 unrelated indi-
 vidual + 無関係の個人 egoistic + 利己的 1711 年 12 月 1 日 a part of sys-
 tem + 1711 年 12 月 1 日 We only call him "good" when his impulses &
 dispositions are so graduated & balanced as to promote
 the good of the larger whole. X Hobbes 2 1711 年 12 月 1 日
 governmental control + 政府の統制 1711 年 12 月 1 日 1711 年 12 月 1 日
 1711 年 12 月 1 日 good + 1711 年 12 月 1 日 outward acts + good + 1711 年 12 月 1 日

西田幾多郎未公開ノート類研究資料化 報告 4 (2020)

2021 年 3 月 31 日 発行

編 集 浅見 洋・中嶋 優太

発 行 石川県西田幾多郎記念哲学館

〒929-1126 石川県かほく市^{うちひすみ}内日角井 1 番地

TEL : 076-283-6600 FAX : 076-283-6320

E-mail : nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

HP : <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

出 版 前田印刷株式会社出版部

ISBN978-4-944014-25-5 C3010